

おおかみ しおあ  
狼の潮浴び

うんべんじ さんちゆう す おおかみ せんびきづ  
雲辺寺の山中に棲む狼の千匹連れが、遠の潮の日の夜中に海へ潮水を浴びに行きました。

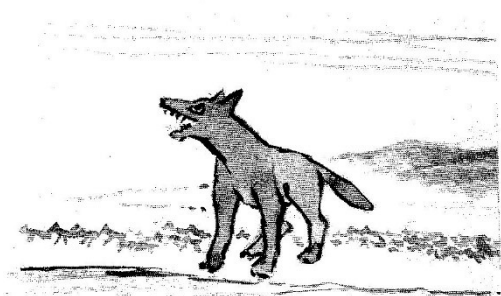
しまお さかや こめつ げんまい せいまい  
嶋尾の酒屋の米搗き（玄米を精米すること）をしていた男衆が見ると、そこの前を流れている川に沿って下がって来た先頭の

おおかみ みち じゆうじろ た ばん  
狼が、道の十字路で立つて番をしていると、その前を後から後から来る狼は頭を下げて挨拶をしながら通って行きました。

のち こ よる せと で せんびきづれ おおかみ く  
それから後は、子どもたちへ夜は外へ出ると千匹連れの狼に食われるから出たらいけないと言い聞かせました。

とうじ はぎわら ばば いえ いっけん おおのはら つじ いま ぶん  
その当時は、萩原の馬場あたりには家が一軒もなく、大野原の辻あたりも今の三分の一にもたりないくらいの家並であった、さ

みしい町まちでした。



『ふるさとむかしむかし』大野原町より

〈大平雪雄〉